

DIALOGUE 2009

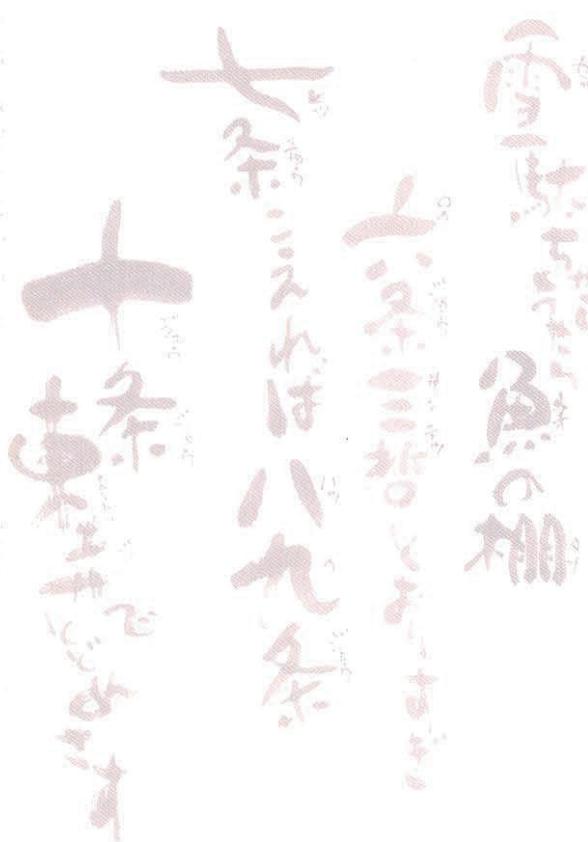
三条通 デザイン計画

2009年度

京都デザイン会議

から見えるもの

The street of Kyoto is designed.



第29回 京都デザイン会議

「三条通デザイン計画」から 見えるもの

・日 時 / 平成 21 年 3 月 11 日(水)
PM2:00~4:30

・会 場 / 京都商工会議所 2階会議室

京都市中京区烏丸通夷川上ル TEL.075-212-6400

・内 容 / ■ 第1部

「三条通デザイン計画」の概要

京都造形芸術大学 教授

(社)京都デザイン協会 副理事長 大石義一

■ 第2部

各商店街からみた「三条通デザイン」

パネラー: 大西 弘太郎(三条小橋商店街振興組合 理事長)

若井 直温(三条名店街商店街振興組合 事務局)

村上 俊夫(京都三条会商店街振興組合 副理事長)

今村 穆義(三条太秦繁栄会 副会長)

高木 治夫(大映通り商店街振興組合 理事)

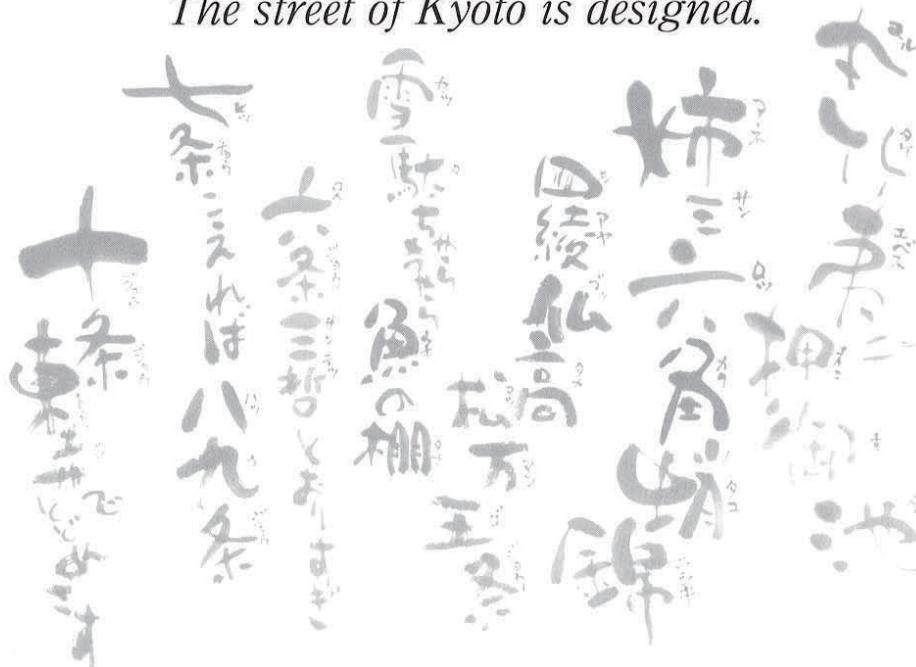
石川 暁之介(嵐山商店街 副会長)

加藤 就一(嵯峨商店街 副会長)

オブザーバー: 神戸 一生(NPO 法人 神戸デザイン協会 理事長)

司 会: 藤原 義明((社)京都デザイン協会 副理事長)

The street of Kyoto is designed.



ご挨拶

今年度初頭から、京都デザイン協会の中で「三条通デザイン計画」なる研究会を組織されました。われわれデザイン関係の者が、それぞれの町が抱える問題の解決について考え、それが連なって京都全体、あるいはもっと広く元気になっていけばいいな、この冷え切った状況にちょっと火をともしたいなということで始めたもので、これからもま

奈良 磐雄
京都デザイン協会 理事長



だ2年、3年とこの研究会は続きますけれども、どんどん参加していただく方が増えて、また意見もどんどん出していくたで、当初の目的が達成できればと考えています。

今日はその案をご報告し、三条通に連なる商店街の代表の方々にその状況をお話しいただいて、有意義な時間を過ごしたいと思います。

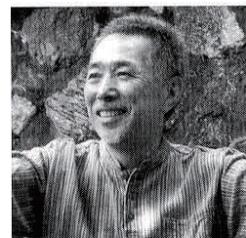
第1部

「三条通デザイン計画」の概要

京都デザイン協会の中で7名ほどが主体になって、三条通を考えていこうという活動をしているのですが、今日は皆さんに私たちが一体何を考えているのかということをまずご説明し、それから若干の提案をさせていただいて、それに基づいて気楽にそれぞれのお話を聞いていただこうと思っています。今日の京都新聞の朝刊に、タイムリーにわれわれの計画のことが出まして、その記事を読んで「僕たちも三条通にかかわっているよ」というような方にも足を運んでいただいたようです。これは大変うれしいことで、われわれはたくさんの団体の方々との計画を進めていきたいと思っております。

京都デザイン協会は、40周年を迎えてそろそろ京都全体のデザインをしようではないかと大きく風呂敷を広げまし

大石 義一
京都造形芸術大学 教授
三条プロジェクト実行委員会 委員長
(社)京都デザイン協会 副理事長



たが、さてどこからやろうか、町を面としてだけではなく、通りという線から見ていこうではないかということになり、いろいろなストーリーがある三条通に着目しました。三条通をひとつ大きい流れとして、そこに新しい出来事がつくれないか。それがひいては京都の商業や観光を復興させ、ひょっとすると文化的な活動にもつながっていくのではないかという期待も込めています。今日はその1回目の会議ととらえていただければ結構かと思います。

ご存じのように、京都にはたくさんの歴史や文化、さらに現代に生きている生活文化があります。その魅力は京都中に散らばっていますが、三条通を軸として考えていくれば面白いのではないかということで、まずは三条通の魅力を探ってみました。



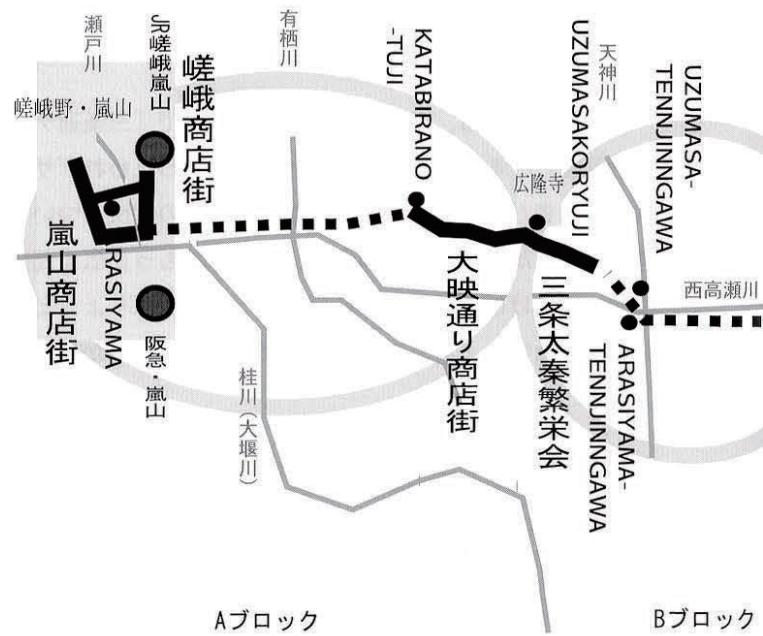
京都三条会商店街



三条小橋商店街

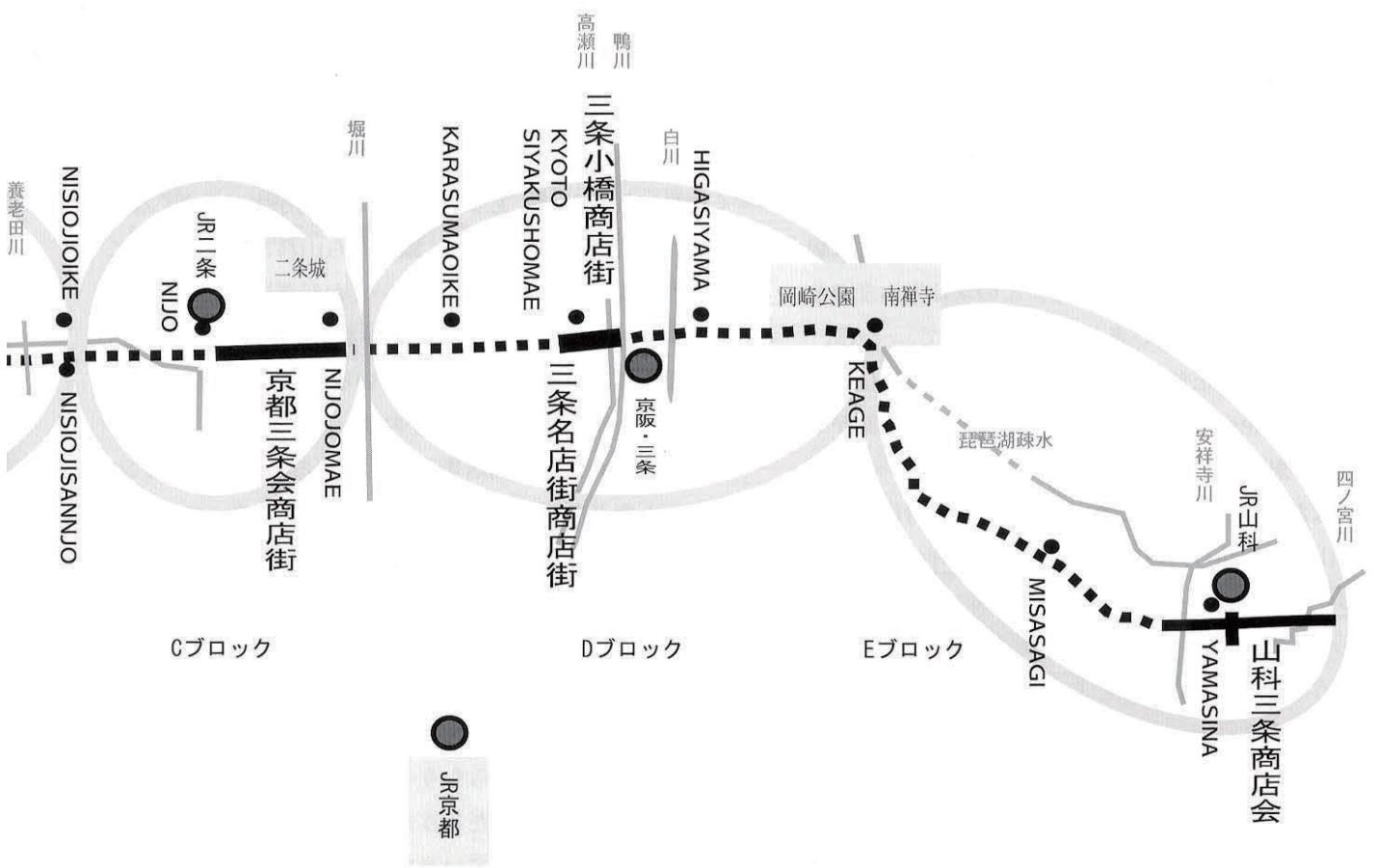
三条通は、山科三条商店街の四宮（旧街道）から九条山を通って蹴上、蹴上から鴨川を渡って、三条小橋商店街、三条名店街商店街、烏丸通、堀川を経て、京都三条会商店街。それから千本、西大路を越えて、ずっと西に行って、太秦の三条太秦繁栄会、大映通り商店街、さらに西に向うと桂川が臨め嵐山、嵐山商店街、嵯峨商店街まで行くと、大体15kmあります。1kmをゆっくり、30分くらいかけて歩くと7時間半かかるのですが、この道のりを一つの大きな通りとして、物語がつくれるといいなと思っております。別な言い方をすると、この通りを歩いて楽しめる通りにしたい。しかも1日では楽しみ尽くせない、何度も来てもらえるように考えてみようということです。

現実には、歩くだけというのはなかなか大変なものです。しかし、この通りをよく注目してみると、近年非常に鉄



道網が発達してきているのがわかります。JR山科駅、二条駅、阪急の嵐山駅、京阪の三条駅と連携しています。それは大阪や神戸、滋賀をつないでいます。市内の鉄道も随分整備され、地下鉄の東西線の太秦天神川駅ができるなどで京福の嵐山線とも連絡できました。京津線も三条京阪から山科を経て浜大津につながっています。三条通りに絡むそれぞれの駅が大体1km当たり1駅あります。ですから、歩いて、疲れたら電車に乗って、と車なしでもそれぞれの体調にあわせて歩ける三条通だと言えます。

また、三条通は京都市内を東西の端から端まで突っ切っていますので、南北に走る川とはほぼ全部交差します。実際に歩いてみると、川は町の風景を活性化する役割を担ってくれているのが解ります。実は京都には人工的な川もたくさんあります。琵琶湖疎水、高瀬川、堀川、西高瀬川な



どです。つまりそれは産業、商業にかかわっているわけですが、そういう川にも三条通はかかわっているという都市の構造的な魅力もあるようです。先程申し上げましたように、鉄道網がしっかりとしていて、川をはじめとする自然の風景も豊にあって、京都の歴史的な文化財や建造物散見できます。このようないろいろなものがこの通りに織りなされている。そういう魅力が三条通にあることを再確認しておきたいと思います。

その上で、今日は、商店街の方々に来ていただいているので、商業的な見地から三条通りのイメージを「日本一長大なショッピングモール」として見立ててみたらどうだろうかと思っています。昨今、イオンなどの巨大なマーケットが、単に商業施設だけではなく、文化施設や医療施設や教育文化施設も含めた複合的なショッピングモール建設し

ています。そこに行けば一日遊べるというようなテーマでできており、ある意味では生活文化の中に浸透してきているわけです。ならば京都は、この三条通をいっそ長大な15kmのショッピングモールとしてまず設定してみたらどうか。商業も文化的なことも歴史的なことも、いろいろなものがここで物語として出来上がって来る、あるいはトータライズされると、観光客も、地元の人も、多くの人たちがここを訪ねながら、生活のリズムを獲得できるような場面になるのではないかと。

京都の歴史をひもとくと、時代ごとに随分新しいことをやってきています。特に明治のころは発電所を造ってみたり、その電力で市電を走らせてみたり、日本の近代化の先陣を切っていました。古いものの上に新しい技術なり、新しい生活のリズムを開発してきたと言えるでしょう。そこ

で、平成の今日、私たちが新しいエコロジーな技術、生活、ソフト的な活動をどんどんやっていくことが、新しく生まれ変わり続ける日本の歴史街道でありたいという思いを具現化できるのではないかと考えています。

京都は地元の人が楽しむだけの場所ではなく、観光が大きなウエートを占めています。そういう中で、この三条通を歩くなり、自転車で移動しながらショッピングをしたり、社寺仏閣を見学したりできます。それから、いろいろな駅がありますから、今日は二条駅まで、この次は嵐山までと乗り継ぎ、乗り換えながら、あるいは日を変えて、一人駅伝ができる、仲間駅伝ができる。そういうような駅伝観光も一つの新しい企画として、これは鉄道の方々とお話をできればいいと思っています。

15km はあまりにも長いので、5 ブロックに分けてみました。嵐山商店街から大映通り商店街の広隆寺の辺りまでを A ブロックとしました。嵐山の名所のみならず、日本のハリウッドと呼ばれている映画村等があります。実は 15km のうち、商店街のないところの方が多いのです。しかし、そういうところにもいろいろな特徴があります。それを今後の計画にも反映させていきたいと思っています。そういう意味では、B ブロックにあたる太秦商店街さんから西大路の三条までは、特に島津製作所さんの辺りは広い道で、商店街などという雰囲気ではありません。でも反対に、その風景がひょっとしたら新しい三条通の、この地域の特徴になる可能性があると思われます。C ブロックが西大路から堀川までです。この間は三条会商店街さんという、非常

に特徴のある商店街がありまして、その西側、つまり二条駅から西は、かつて西高瀬川があり、木場がありました。今はあまりその風景がなくなっている。ここをどうするかも大きな課題になりそうです。D ブロックは堀川から蹴上ぐらいまで、ここは京都の中心地なので、既に個性豊かな商店街などが出来上がっています。このブロック内がうまくつながると、A、B、C グループとの連携がすごく良くなります。そして E ブロックは、蹴上から山科までです。ここでは九条山をどうデザインしていくかが課題になろうかと思います。このようにブロック分けをすると幾つかの特徴が見えてきます。それぞれ持っている道の構造も違うので、今後どのように計画していくかの楽しみです。

今日はこれから各商店街の抱えている課題やビジョン、イベントなどを話していただきますが、それを一つにつなげていく、商店街情報のネットワークができないか。それから、商店街以外のスペースにもいろいろな店舗があります。そういう孤立した店舗同士のネットワークづくりもできないか。酒屋さんだけでも 20 軒ぐらいありますので、それだけで一つの企画ができるかもしれません。カフェも病院も然りです。それからもう一つ、全体を見る目がビジュアルにあった方がいいだろうということで、三条通のマップを作成したいと思っています。それによって、われわれもそうだし、観光客の皆さんにも、京都市の町の方たちにも問題が見えてくるということもありますので、今後こういう活動をやや地道に続けながら、三条通りの全体をまとめていきたいと考えています。



三条名店街商店街



三条通

第2部

各商店街からみた「三条通デザイン」

パネラー：大西 弘太郎(三条小橋商店街振興組合 理事長)
若井 直温(三条名店街商店街振興組合 事務局)
村上 俊夫(京都三条会商店街振興組合 副理事長)
今村 穆義(三条太秦繁栄会 副会長)
高木 治夫(大映通り商店街振興組合 理事)
石川 暁之介(嵐山商店街 副会長)
加藤 就一(嵯峨商店街 副会長)

オブザーバー：神戸 一生(NPO 法人 神戸デザイン協会 理事長)
司 会：藤原 義明((社)京都デザイン協会 副理事長)



大映通り商店街



嵐山商店街



嵯峨商店街



藤原義明 氏

(藤原) 今日は、各商店街が今抱えておられるいろいろな問題、課題を聞かせていただいて、われわれが進めておりますこのプロジェクトに反映させていきたいということで、三条通にかかる商店街の方々にお集まりいただきました。

まず、各商店街が抱える問題点等の現状をお話しいただければと思います。

(加藤) 嵐山商店街の加藤です。嵐山商店街は、JR嵯峨嵐山駅界隈と天竜寺さんの方に向かう道沿いにある商店街です。どちらかというと最寄り品を扱う商店街で、主には魚屋さん、お肉屋さんなど、一般の小売店が多くあります。近年、この地域は何万人という観光客の方が歩くような商店街に変わりつつありますが、観光ということにはまだ対応できていない状況にあります。そこで、地域商業ビジョンということで、この地域をどう活性化するかをテーマに討議している最中です。この地域も老齢化がだんだん進み、今まで購買の中心になっていたお客様の層が 65 歳から 70 歳、80 歳になり、購買力の全体的な低下と、夜間人口の減少が著しくなってきていて、売り上げ等を地域の方だけで稼いでいくのはなかなか難しい状態にあります。嵯峨嵐山は本当の西の端にございますので、一般耐久消費財に関しては流出傾向にある地域で、どのように今後、観光客をお客さまとして取り入れていくかが大きな課題になっております。

(石川) 嵐山商店街の副会長をしております石川です。京都デザイン協会さんはもう 40 周年ということで、すごい歴史があると承りました。嵐山商店街は、お隣の嵯峨商店街さんとはまたちょっと違い、対象の 9 割方が観光客という商店街で、年間事業もそういうことを意識しながら進めているところです。立ち上げてからもう 12 ~ 13 年になる

のですが、嵯峨商店街さんが 2 ~ 3 年先輩で、こちらの山本会長から商店街を立ち上げたらどうかと声を掛けていただいて、街路灯を作ることからスタートして、先輩の嵯峨商店街さんを見習ってやってきました。

観光客相手の行事のほかにも、地元に根ざしたお祭りなどにも参画、協力してきておりまして、例えばまもなく 3 月 15 日から、桜祭りをやる予定ですし、嵯峨祭が 5 月の第 4 日曜日に催されます。七夕祭りは 7 月に、渡月橋から北の南北、嵯峨野線まで竹を 20 ~ 30 本立て、そこへ七夕を飾り付け、各商店街加盟店はそれぞれ小笠を付け、お願事を観光のお客さまに書いていただく。それを最終日の 7 日、8 日ぐらいに川原に持ち込み、野宮神社さんのおはらいを受けて、幼稚園児も 100 名ほど招待して、たき上げで願い事をかなえるというような催し物です。これはなかなか評判がよろしゅうございます。

それから、秋には 9 月 30 日から始まるもみじ祭りがあります。これも街路灯のポールにプレートを付け、商店街の PR も兼ね、あるいはもみじも飾り付けて、協賛広告、あるいは割引等の展示もしてやっております。秋のもう一つのメインは、斎宮行列です。これは嵯峨商店街さんとの強力な関係の下、下賀茂神社の葵祭にありますように、野宮神社でみそぎを受けた巫女（みこ）さんが熊野までお参りしたというのを再現して行っています。観光を意識した行事で、京都の三大祭りは皆さんご存じだと思いますが、この祭りを入れて四大祭に育て上げようということで頑張っているところです。

(高木) 大映通り商店街の理事をしております高木です。大映通り商店街は、観光客という顧客は一切見込めない商店街です。嵐山さんでは年間 100 万人、200 万人、近くにあります東映太秦映画村は 100 万人と、ちょっと離れればたくさん的人が来られているのですが、その観光客が来られることは望めないという地勢的なものを持っています。

商店街そのものは嵐電さんの太秦駅から帷子ノ辻駅一駅分の長さがあり、600m 強ほどある商店街で、現在、組合の加盟店数は 64 ~ 65 ですが、非加盟のお店もありますの

で、店の数はそれなりにあります。ただ、顧客は高齢化していて、電動自転車、三輪車の電動で動く車が毎日必ず走っています。夏や年末の大売り出しの抽選会をするとよく分かるのですが、お年寄りが車いすもしくは電動車いすで、お一人もしくはカップルで来られます。かつては大映も含め幾つかの大きな映画会社があったのですが、それがなくなつて産業人口が減り、少しづつ人口そのものが減ってきて、顧客の年齢層が上がっている。なべにカエルを入れて温めていくと徐々に温まっていって、ほうっておく死んでしまう。そういうことを連想させるような、今後、非常に大きな課題を持つ商店街です。新しい顧客層を開拓する、商圏エリアを開拓するにはどうすればいいかということに、今取り組んでいるところです。

(今村) 三条繁栄会の今村と申します。大映通りさんの本家を自負して何十年やらせていただいている商店街で、商店街というよりも、各戸の集まりという感じでやらせていただいています。もともとは右京区の中心で、役所なども皆、太秦にありましたので、僕らの子供の時分は、松尾、西京極、高尾辺りからも太秦へ買い物に来て、役所に寄つて帰るというようなところだったので、それが今はシャッター通りに近づきつつある現状です。うちも街路灯の電灯会員は70～80軒ですが、現実に商売をなさっているお店は50軒を切るような状態になってきています。そこへ先日も大石先生がおいでになって、三条通を何とかしようとお話ししていただいて、思つてはいることをお考えいてくださっているところがあるのだなど、うれしくなりました。

それと、天神川に地下鉄ができました。それも一段落して、今度は行政の方でも太秦の西を再開発するというお話を浮かんできました。希望がわいてきたな、こっちがぼけるまでに次の世代に渡せるのではないか、逆にまちなかの三条山科の商店街よりも太秦の方がこれからは希望が持てるのではないかと自負しているところです。

もう一つ、太秦の三条街は、道が一番狭いのではないかと思います。われわれの子供の時分は、三条街道といった



ぐらいで、馬車しか通らなかったところに今は大型の観光バスが通るので、買い物に来てくれという方が完全に無理なのです。そういうところで細々と商売させていただいています。

(村上) 京都三条会商店街の副理事長をしております村上と申します。私の商店街は、東は三条堀川、西は三条千本までのアーケードを作らせていただいております。今から20年くらい前の最盛期には、加盟店は250店舗以上ありましたが、現在は180店舗前後です。最悪の時期は5年くらい前で、そのときは170店舗を切っていたのですが、現理事長が頑張って、いろいろな事業をさせていただいたり、JR二条駅が再開発されて、新しいお客さまが来てくださるようになってきて、通行調査では5年前より約30%増えています。

ただ、現在私どもの商店街は、自転車で来られる距離の方の商店街なのです。観光客が来ておられる商店街ではございません。メインは自転車です。私どもの強みは、スーパーが建つときに、周りには建ててくれるな、建てるのなら真ん中に来てくれと、商店街の真ん中にスーパーを2軒建てさせたことです。西友さんとフレスコさんが来ておられ、スーパーと共に存ということを考えています。本音を言うと、約800mのアーケードの経費を払いながら商店街を経営していくに当たり、2軒のスーパーが撤退したらうちの商店



街はつぶれるでしょう。私たちがなぜスーパーを取り込んだかと申しますと、スーパーの周りにいる人間は確かに困るのですが、スーパーが客を呼んでくれるのだから、その客からコバンザメ商法をしようじゃないかという発想があったわけです。実際、ここ数十年前から、スーパーがない商店街よりは人を集めていると思っています。大雨の中で 12 時に計ったことがあるのですが、三条堀川から三条千本までを歩いたり、自転車に乗ったりして通った方が、600～800 人ぐらいおられました。ただ、これはアーケードがあるからで、別に店の魅力によるものではないと思います。

いろいろな事業をやる中で一番困るのは、商店街の中にいながら組合員になっていただけない方が結構おられることです。うちの商店街の中にもおられましたが、3年前から 100%組合員になっていただきました。なぜこんなことができたかというと、うちの理事長が 2軒の店舗を相手に裁判を起こしたのです。実は裁判を起こす前、11 店舗が組合員ではなかったのですが、残り 9 店舗は「裁判を起こされたらかなわん、今のうちに入ったら裁判せえへんか」と言われたのです。彼らは単なるごね得を狙っていたわけです。アーケードを持っていると、年間経費が大きいのです。電気代だけでも、今は省エネ電球に変えましたので年間電気代は 600 万から 400 万ぐらいに下がりましたが、アーケードの簡易補修だけでも年間 200 万かかります。実は京都市

さん、京都府さん、国から補助金を預いて 3 年前に補修をしたのですが、そのときには 1 億 2000 万円かかっているのです。ですから、組合員になっていただかないと商店街はつぶれるのです。

商店街としては、おかげさまでちょっと上向きです。ただし、新しい店舗が入りながら減っておりますので、入れ替えが年間に 5～10 店舗あります。なぜこんなことが起きているのかというと、地域に根ざしてはいるのですが、だんだん高齢化して、やる気がない、新しいことを考えない、今現在来られている顧客に対応した商品を売っていないという、この三つでやめていくからです。でも、おかげさまでやめた店を待っているかのように、新しい店が入ってきてくれています。最盛期には 250 店舗あったわけですから、180 店舗というと相当減っているわけですが、それでも下げ止まりしているのかなと。

今の理事長になりましたから、イベントを年間 20 回やるようになったので、役員が動かなければならない日が大体年間 122 日あります。むちゃくしゃいしんどいですが、やっております。最近、一番やって良かったと思ったのは、うちの商店街では年末にポイントを発行しているのですが、商店街で 1 万円の割増金券を買っていただくと 1 万 1000 円に、商店街の少しのポイントを持ってきていただくと 1 万円が 1 万 2000 円になりますよというものを販売したの



です。すると、ほとんどのお客さまがポイントを持ってきて、1万2000円の方を買われるわけです。それを毎日100万円ずつ、6日間で600万円売りました。2割増ですから、全部で720万円の商店街の金券を販売したのですが、6日間全員、ウィークデーの昼の2時から、15分で完売でした。やはりお客さんも不景気で、それだけシビアになっていらっしゃるわけです。この金券は、スーパーでは使えない。商店でしか使えないようにしてあるのですが、年末は何やかやと商店で買い物をされるので、それでも売れるわけです。割増金券はここ3年ぐらいさせていただいて、やる気だけはある商店街だと思います。

デザイン協会さまには、いろいろなアイデアを出していただき、マップを作っていただいて、お客さまが三条通を歩いていただく、自転車で来ていただくような企画をぜひお願いします。できるだけ協力させていただきます。

(大西) 三条小橋商店街の理事長をしております大西です。私どもは、三条通の河原町から三条大橋までの200m足らずの小さな商店街です。三条大橋、三条小橋という二つの川に隣接している商店街で、大阪から来られたお客さまがまず三条京阪で降りて、三条河原町などに行かれます。昔は東海道五十三次の終点で、非常にぎわいました。江戸時代から明治ぐらいにかけては、私どもの商店街、中島町には旅籠、宿屋がずらっと並んでいて、京都の昔のガイドブックにも必ず出ていました。明治以降もまだ十分に宿屋があり、昭和に入ってもずっとあったのですが、万博のときとかなりの資金を投じてビル化されたりきれいにされたりして、その後、お客がぐっと減り、借金が返せなくなったり廃業されたりして、徐々にテナントビルのような形になりました。

商店街も一応あったのですが物販が基本で、私どもはまだ宿屋さんが多かったので、防犯上悪いということでアーケードが付けられなかっただけですが、ある意味で幸いしているかもしれません。やはりアーケードは非常にお金がかかりますから。ただ、今、三条通は車が非常に多いので、イベントをやるにしても場所がない。雨が降るとできないというのが一つの悩みです。

イベントとしては、NHKの大河ドラマで「新撰組」をやったころから、7月15日に池田屋騒動跡で殉難者の供養祭ということをやっています。また、祇園祭にはマップを作り、店に来られた方に無料で差し上げています。それから、時代祭が今、私どもの商店街を通っています。私たちが小さいときは三条通を通っていたのですが、御池大橋ができるから御池を通るようになり、やっぱり三条大橋を通ってほしいということで、パレット商店街と一緒に平安講社等々にお願いして、15年ぐらい前に通るようになりました。行列の先頭は鼓笛隊の音があって非常にいいのですが、その後が何の音楽もなく、だらだらとした行列が続くので、商店街ではプロのアナウンサーを呼んできまして、時代祭の行列の説明を詳しくするようにしています。

また、4~5年前に東海道の400年祭ということで、三条大橋から山科までを弥次喜多の格好をしてマラソンでつなぎ、いろいろな商店街を回って最終的には東京の日本橋まで行くという駆伝方式の企画を品川の商店街の方が持ってこられました。一度やってみようかということになって、そのときは品川から持てこられた衣装を着てやったのですが、それをきっかけに自分たちで弥次喜多の衣装を作り、今は時代祭のときに役員なりが着て、行列を邪魔しないぐらいの形でパフォーマンスをしています。弥次喜多といいますと、私どもの街区には弥次喜多像がございますが、あ



第29回 京都デザイン会議 「三条通デザイン計画」から見えるもの

・主催 / 京都デザイン関連団体協議会・社団法人京都デザイン協会

・後援 / 京都府

れも 15 年ほど前に、街路灯を設置し、御影石のカラー舗装をしたときに、同時に建てたものです。それが功を奏して、いろいろなところから話があります。

最近の事業としては、3月 18 日に府・市・国の補助金を使って防犯カメラを 14 台設置しました。われわれの街区は、今まででは宿屋さんが多かったので、お土産物屋さんが結構多かったのですが、だんだん夜の町化して、居酒屋さんや食べ物屋さんが増えてきて、深夜に泥酔客にいろいろなことをされたりするからです。今は池田屋騒動のところが空いていて、以前はパチンコ屋だったのですが、5 月ぐらいから居酒屋になるようです。パチンコ屋よりはいいかなということで賛成はしております。また、東宝公楽も撤退され、ホテルになるということです。高級なホテルらしいので、ある意味で歓迎かなというところです。

今、京都商店街連合会の中の中京支部に参画しているのですが、そのまた中の 14 商店街で、2 年ほど前に三条通を京のお入り口としてやっていこうではないかと決めていただきました。今は三条京阪の乗降客が減っているようなので、何とかこれを盛り上げようということで、2 年後か 3 年後に三条河原町の交差点を、スクランブルを含めた歩車分離の形にするということで意見の調整をしているところです。それに向けて、私のところでは商店街を核にした道路整備など、まちづくりをやっていこうということで、21 年度は三条小橋を中心に考えていくような状態になって

おります。

(若井) 私ども三条名店街は、商店街としては非常に短く、150m ぐらいしかないので、京都の中心部の、人がたくさん集まつてくる場所にあります。魚屋や八百屋といった日常的なものではなく、おしゃれなまちの本当の中心部です。観光客もかなり多く、修学旅行生も、一般の観光客、外国からの観光客も来られて、アーケードもありますので、ゆっくり買い物ができます。僕は事務局長になってまだ 1 年ほどですが、ここは京都の中では非常に豊かで、それぞれの店舗も、経営的にはまあまあやっていっているのではないかと思います。アーケードの維持費は結構かかるのですが、それなりの組合費で維持しています。

しかし、ここで何をしたらいいのかということが、ちょっと分からぬ。観光客も景気に左右されますので、最近特に海外からは減っています。海外のお客さんに対するイベントを考えても、これというイベントはありませんので、この名店街ではほとんどやっておりません。普段から人は来ているわけですから、イベントで人を呼ばなければならないという場所でもないのです。その辺が悩みと言えば悩みです。

最近は、海外から来られる観光客の方は、前もってどういう店に行こうかとインターネットで調査してこられる方が非常に多いので、インターネットを強化していくこうという考えが出てきています。それと、10 代後半から 20 代、30 代前半ぐらいまでの若い、ファッションを楽しむ人がたくさん集まっていますので、携帯電話を利用して情報発信をしていきたいとも考えています。どういうふうに安くあげるかは、これから勉強課題です。

(藤原) 各商店街のそれぞれの特徴と現在抱える悩み、問題点等々を話していただきましたが、三条通デザイン計画についてはどうのように感じられましたか。

(若井) 三条通も西と東ではかなり情勢が違いますので、そこを一つのデザインでくくっていくのはかなり難しいと



思います。どう連携していくかを考えていくべきでしょう。

(加藤) デザインに関しては若井事務局長が言われたとおりで、うちの地域でもデザインということがすごく問題になっています。やはり京都の中心部と、嵯峨嵐山地域とでは、やはりデザインは異なるのではないかということが頻繁に言われています。京都中が同じような形で、もし祇園の町みたいになってしまふと、すごく人工的になってしまって面白みがなくなるのではないか、嵯峨嵐山の魅力を失ってしまうのではないかと、若い人を中心に、問題提起されている最中です。

ただ、うちの地域も自然発生的な商店街でもありますし、原風景がどうだったかということを皆さんあまり思い出せないような状況にもあって、嵯峨嵐山のデザインには何がふさわしいのかが今のところ分からぬ。地元にとっての嵯峨嵐山、観光客にとっての嵯峨嵐山、それから外国人の方のお客さまもすごく増えており、その方たちが抱く嵯峨嵐山とはどういうことかを分析しあぐねているところがあります。それを間違ふと大変なので、慎重に考えていかなければいけないと思っています。

(藤原) 西東で当然環境は異なるのですが、われわれが「デザイン計画」と大きくくっているのは、「都市計画」などの景観ではなくて、地域活性化のためにデザインという一つの大きなテーマを設けて地域の財産を掘り起こし、連携を図って横につないでいくということです。ですから、われわれが知らない地域の財産等々をお聞かせいただき、今後のこの計画に反映させていきたいと考えているのです。私も堀川から千本まで、何回か歩かせていただきました。他の商店街とは違ってアーケードがありますし、野口みずきさんがあそこで雨の日も走られたという、それも一つの資源です。

(石川) いろいろお店があり、それぞれの商店街の特色、事情が多々あって、なかなか難しいかと思うのですが、京都全体から考えると、お寺や神社仏閣、文化財、世界遺産

もあります。われわれの嵯峨嵐山だけでも 41 もの神社仏閣がありますので、京都らしさも失わず、地域それぞれの特色を生かして、総合的に進めていけばいいのではないかと思います。

(大西) 私は三条通りの今の地図に出ている所は全部歩いています。私のところから嵐山までと、山科までも、また違う日できちっと歩いています。その中で見えてくるのは、やはり商店街のないところです。三条を考える会というのが三条名店街さんから西の方にもあるのですが、途中で切れてしまうのです。千本から西大路までは、昔、材木屋さんがたくさんあったことはよく知っています。そこから向こうの島津さんのところにもいろいろ面白いところがあるのですが、ぶつと切れてしまう。この三条通を歩いていくと、山科から蹴上をずっと行って、嵐山まで行けるということを知らない方が多いのではないか。マップを作るにも、まずそこを課題としてやっていかなければいけないのではないかと考えます。

何年か前に、私のところの街区から三条会さん、千本ぐらいまでをウォーキングしようという企画を考えたことがあるのです。それはまだ実現できていないのですが、商店街ごとに説明をしていただいて、その辺ぐらいから何かできるのではないかという思いはあります。

ただ「デザイン」と言われても、何をどうしゃべらせて



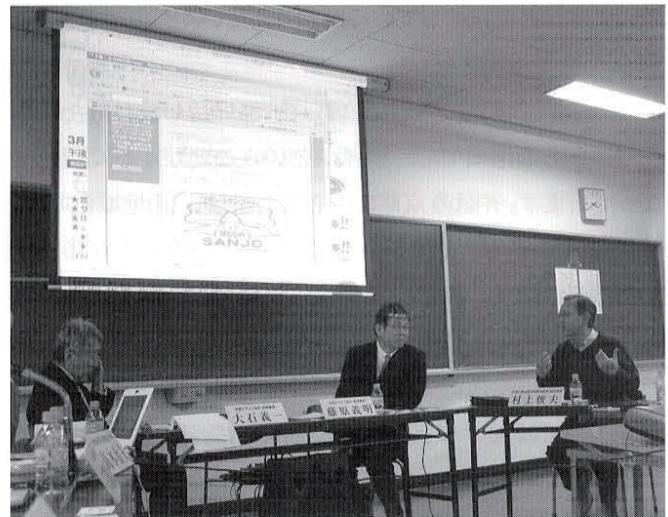
もらつたらいいのか疑問に感じています。つなげることがデザインなのか。今ちょうど市が景観条例を出して、いろいろなところで厳しくされています。今度ホテルが建つのですが、中京の西支部長から、「あんたんとこ、建つんならもうちょっと京都らしい、特に京の入り口として見られるような、外観だけでもいいさかい、そういう景観にしてもらえ」と言われていて、それも要望していくつもりなのですが、そういうところまで踏み込んでやっていただけのかどうか。

(大石) 京都市の景観条例が大きな契機になり、京都の町をもう一度見直そうという気運はあちこちで高まっています。われわれにもそういう意識はあります。ただ、ハードな意味でのデザインは、経費の問題もあるし、コンセンサスを得るのにもすごく時間もかかります。ですから、われわれは、むしろソフトなデザインも必要だと考えていて、先ほど統一の話が出ていましたが、三条通をただたんに統一することではないと思っています。三条通にいるのだという意識でいい。三条通の端っこの方で何かやっていることを知っている、真ん中でやっていることも知っているのだという意味でのソフトのデザインから始めたいのです。そこからやがて、例えば島津さんの前はもう少し並木道をしっかりしようかとか、高瀬川の水をもっとしっかり流そうかとかというハードの動きがあるかもしれません、今はソフト面でのデザインから始めて、それがハードにつながればいいなというところです。

(藤原) 急にお集まりいただきて趣旨説明はなかなかご理解いただけなかったと思います。今日は第1回目ということで、いろいろなご意見を聞かせていただくことが主体となっております。

(石川) 村上さん、加盟店を全部加盟店にするというのは強制力はあるものなのでしょうか。

(村上) 結果論から申し上げます。法律問題から言います



と、商店街に加盟する権利は一般の方にあります。ただし、義務はありません。例えば私どものような商店街でアーケードを持って、その中で営業店舗を構えていらっしゃる方にに関しては、高等裁判所まで行きました。最高裁というのは全国的に本当に大事な事件を扱っているので、民事のそういう判断は、最高裁には行くことはできるのですが、基本的に却下が多いようで、私たちは高等裁判所の判断=最高裁判所の判断だと思っていました。裁判所は、法律的には入る義務はない、権利だけはある、ただしアーケードがあって、電気がついていて、雨の日にお客さまも来られて、この権利に関してはあなたは不当利得を得ている。だから、そのアーケードにかかる補修費用、建設費用は負担しなければならないという判断でした。そして、最後に裁判長は、「あなたがもしもこれからほかの組合員さんと一緒に組合活動をなされるならば、私は今この理事長にお願いして、今まで支払っていただいている部分をある程度減額していただこうと思うのですが、あなたはどう思いますか」と。裁判所としては、法律問題だが、皆さんのが力を合わせてやっていくのが商店街でしょうとおっしゃりたかったのでしょう。

これは私が作ったのですが、商店街の今月の売り出します。うちの商店街では、シール帳一冊が300円の商品券になるのです。ポイントカードではなく、昔ながらのシールです。このホームページも私が作ったのですが、プロに頼



むとお金が要るので、ど素人で作っております。この中にはいろいろなイベントの情報や、リボンスタンプのQ & Aなども書いてあります。リボンスタンプ ×40 というのは、40枚分の大きなシールです。シールタイプなので、のりなしで張れます。ポイントカードにすると年間 100 万円ぐらいの経費が要るので、いまだにこんなことをやっています。これは春の売り出しなのですが、1カ月間で抽選会を2日間やり、賞品総合計が 850 万円です。なぜこんなことができるかというと、自分たちにはほとんどお金を使わないからです。自分たちの会議は全部手弁当です。商店街内には魚屋、うちは寿司屋ですが、料理屋、肉屋、八百屋がいます。それぞれ材料を持ってきて、テーブルの上に置いて会議をします。絶対に外で食事はしない。それが商店街に金を落とす方法なのです。その余ったお金でお客様のプレゼントの予算とする。

組合員からの年間収入が大体 2200 万、プラス補助金を毎年京都市さん、京都府さんから何やかや言いながら大体 800 万ぐらい頂いております。その合計 3000 万円ぐらいのうち、約 1000 万円は必ずお客様に還元しています。組合事務所経費としては、家賃 12 万円を 12 カ月払っていますが、これも京都府さんに補助金を頂いて改装して、1 階を貸しテナントにすることで、家賃の 70%を回収できています。家賃のうち 7 万円分ぐらいは人に貸して回収しているわけです。

私たち、とにかく地域のお客さんしか相手にしない。観光客は私たちには絶対無理なのです。歩いて来られるお客様や自転車のお客さんしかいない。それをどうやって引きつけるかというと、今おられるお客様を大事にするかしかないのです。だから賞品を豪華にしたり、地域のお客さまに年間 20 回ぐらいイベントをやって、よそに行かないでねという企画をやっています。

(高木) 提案書という形で少しまとめてみたものがあります。これは三条会さんから受け継がれた部分が一部あるのですけれども、大きくは 3 点です。

一つ目は、この三条街道という場所を、商店街だけではなく、その途中も含め、多くの方々にご参加いただいて、花でつなごうと。13 日から東山で花灯路が始まりますが、それとは違って本当の草花でこの三条通を全部つないでいくってはどうかと。100 年以上前は、多分、この街道はそういう場所だったのではないかなと思います。例えば大映通りの商店街では、6 月にあじさい祭りという形で、1 カ月の限定ですが花のイベントをしていただいている。近隣に中学校があり、中学生の方が 1 年間あじさいを育てて 6 月に商店街に並べられるという、一つの社会勉強を兼ねて中学校と連携した事業で取り組んできております。この校長先生が前は三条会の方におられましたので、三条会でもされていたと聞いております。そのように、周辺の学校あるいは企業を含め、この三条街道の道を何年間かかけて花でつないでいくと、非常に重要な観光ポイント、あるいは癒しのポイント、癒しのストリートになるのではないかと思います。今、いろいろと時代が変遷してきまして、大きく社会構造が変わろうとしていますけれども、その次に出てくる社会は多分「心」というものを重視したものになっていくんだろうと思っています。日本では源氏物語の時代から、花というものが重要視され、尊ばれ、いろいろな形で日常の中に文化として浸透しているわけですけれども、花をテーマにして、いろいろな花でこの街道をつないでいくという、全体としての共通のビジョンという形で打ち立ててはどうかと思います。



二つ目に、この三条街道は 100 年前はメインストリートで、流通や人の行き来が増え、大変重要な通りだったわけです。そこを拡幅するのはなかなか難しいので、五条通や四条通と周辺の道路が広がっていったわけですが、三条通には歴史的にいろいろなものがたくさん眠っていると思います。プロジェクトの中で、1000 年以上にわたる歴史をひもといいていくと、非常に大切なものがどんどん見えてくるのではないかと思います。例えば映画という視点では、映画が最初に上映されたのは木屋町界隈です。京都電灯という電気がそこで生まれたことがきっかけで映画が上映された。その映画の最初の撮影は真如堂です。東の方で撮影されたわけですけれども、それが徐々に映画という産業として拡大していき、映画のロケ地、撮影場所、映画のスタジオが、二条城辺りから、今の大日本スクリーンさんのような場所、さらに現在の帷子ノ辻という形で、西へ西へと広がってきた。竹やぶを開拓されて映画産業が勃発してきた。そんな形で、この三条通というのが一つのコアな産業通りとしてあり、その延長線上で現在の京都のいろいろな文化が生まれてきているように思っています。そこが今は衰退してしまっているわけですけれども、人を集めることを含め、新産業という形でこの通りをうまく活用していくことができないかと思っています。

京都には、車に関係する会社が実はたくさんあります。三菱さんという、車そのものを販売されている会社もあり

ますが、車の中に使われていますいろいろな繊維や電装部品など、非常に車に関係するものが多く集積されています。そういう中で、一つはエレクトリックカーに焦点を当て、例えば当面は集客を目的としてパレードをしたりして、ここに来れば新しいエレクトリックカーが見られる、乗れるという形のイベントが作れないだろうか。結果的にはそれが一つのエレクトリックカーの産業を生み出していくような下地になっていかないかなと思っています。エレクトリックカーというのは、現在の車が、ガソリンエンジンが単純にモーターの車に変わるというものではなくて、非常に創造的破壊の技術を持った代物です。例えば、ポルシェよりも速い車が実は既にある。あるいは現在の車よりも加速度が速いというような形で生まれていく、全く新しい世界をつくりだしていく代物です。周辺の企業と連携してそういうものをつくりだせないか。できるところからスタートしていけばと思います。

さらにそれから後は、商店街の連携事業として、全部がそろわなくとも、できるところから連携してスタートしていくという形で、一つは、月 1 回程度、三条の手作り市というようなものができればと思います。連携することによってお互いの知恵を融合し、活用できる。プロモーション力も上がりりますし、二つ以上で連携してやることでマスメディアでのパブリシティ効果も当然上がっていきます。できるだけ連携をした形で、三条街道というブランディングをしていく。機会損失をできるだけなくし、できる範囲でできるところから手をつけて、連携事業をスタートしていけばと思います。

(藤原) 高木さんは、総務省の地域情報化アドバイザーということで、インターネット関係のアドバイザーですので、われわれと同じような構想をお持ちです。

東山の花灯路や嵐山の花灯路は、どちらかと言えば拠点事業なのですが、これだけ素晴らしい商店街が集まれば三条通花街道は本当に地域密着型のイベントとして展開ができる。実はそういうアイデアも当協会では 1 年前からいろいろ出ているのですが、それをどういうふうにくくつてい

くかということで、皆さんと一緒に取り組んでいければと考えているわけです。

最後に今村さん、昔は西の右京の中心が太秦で、私はサラリーマン時代に太秦で生活をしていたので一番身近に感じるところなのですが、最近歩いていると非常に道路が狭くて歩きにくいし、ほとんどシャッターが閉まっていて非常に悲しい思いがします。何とかこれを活性化できればと個人的に思っているのですが。

(今村) 四十何件商店街に入ってやってくれていて、意欲はあるのです。それに、お客様自体にも行ってやろうという意欲は持っていただいているのですが、いかんせん道路が狭くて三条街道は怖くて歩けない。子供に事故でも起こされてはかなわないで、「配達します」というようになってきています。イメージ的には一般の方にもすぐ分かってもらえるのが、三条通の太秦だと思います。広隆寺があり、地下鉄天神川駅のそばには三柱鳥居のある有名な木嶋神社があり、観光に来られる方自体は興味を持って三柱通りから広隆寺に行くまでに三条通を通ってくれるのですが、今は非常に危ないので。これだけでも何とか改修していくだけたら、店もできて、もっと意欲もわいてくるのではないかと、何十年も思ってきたのですが、やっと行政の方からそういうお話を出てきていますので、いい方へ変わっていけたらなど希望を持っている次第です。

(藤原) 三条通を歩いてみると、意外と歩けるのですが、京都に何十年とおられる方もそのことをあまりご存じない。埋もれた文化、お祭り、神社仏閣、さまざまなものがあるので、われわれとしてはそういうものを発掘してもう一度見直して、それを皆さんで共有していただき、その中からどんな連携ができるかということを考えていきたい。先ほど村上さんがおっしゃっていましたが、情報交換し、いろいろ刺激を受け合いながらやっていくことも、三条プロジェクトの結果、成果として出てくることではないかと感じます。

先ほど来、商店街の方から現状やこのプロジェクトに対



するお考えを一通り聞いてきましたが、実は京都デザイン協会は社団法人で、いろいろなジャンルのデザイナーがいます。私はグラフィックデザイナーで、毎日チラシやポスター作りをやっています。大石は建築家で、京都造形大学で教鞭を執っています。われわれが加盟しております京都デザイン関連団体協議会の三輪議長は、建築家の御所で、業界の重鎮と言われていますので、三条プロジェクトに関してご意見を是非お伺いしたいと思います。

(三輪) 昨年この計画がスタートして、私は大変うれしかったです。実は私の生まれ故郷は三条会商店街でして、そこがだんだんまた元気になってきているということで、大変うれしく思っております。今も明治29年に祖父が作った建物を保存しております、どなたか活用していただける方がないかと去年も宣伝したのですが、よろしくお願ひします。

高木さんから、いいご提案をいただきました。すぐに今からできることとか、それぞれに違いがあるということはよく分かりました。これはずっと東から西へ連なっていて、ドイツのロマンティックシュトラッセみたいだなと思っていました。あれは一つ一つ小さな町のつながりなのです。それぞれの町で、わが町はということを決めていて、花であれば、うちは赤いゼラニウムでいこうとか、うちは白いのでいこうとかと決めているのです。だから移動してい



くと、町が変わったということが分かるわけです。それわが町の花は何だろうというようなことをご議論いただいて、つなげていく。

これはなかなか簡単には決まらないと思います。例えば観光客と地域の住民とで、京都のイメージを聞きますと全然違うのです。色も違う。「京都のイメージは何色ですか」と聞いてみると、観光客は「朱（あか）だ」と言うのです。平安神宮などの朱をイメージするのでしょうか。しかし、京都の住民はあまり朱とは思わないですね。

それから、何を原点に取っていくかも大事です。私は観光の原点は、やはりそこに働いている人がいきいきすることが第一だと思うのです。そこに働いている人がしけた顔をして、自分の町のことをくさしていたら、全然魅力はないです。いきいきした町にしようということに一生懸命熱中していたら、知らない間に観光客は寄ってくる、魅力が出てくる。これが原則だと私は思っております。

それと、デザイン協会なり、デザイン関連団体協議会の果たすべき役割が一つあったと思います。今日は京都三条商店街サミットみたいなものの第1回ができた。そういう場所をつくっていくのが、デザイン協会の仕事です。実はデザイン関連団体協議会も、公称 12 団体といつておりますが、中にはへたっているのもたくさんあります。けれどもそういうものに場所を提供するのが役目で、そのために京都府さんからも補助金を頂いているわけで、それによっ

て今日はお互いに知り合うことができたわけです。例えばグラフィックデザイナーと建築家が一緒になって議論することは、昔はありませんでしたが、関連団体協議会ができてからお互いに話ができるようになっていった。今日は三条通サミットみたいなものの第1回ができた、お互いに知り合う。そういう役割をデザイン協会さんに果たしていただけたことが、私にはもう一つの最高の喜びでございます。

（藤原） 京都デザイン協会は、近畿圏デザイン協会協議会に参加して一緒に活動しているのですが、今日は神戸から、神戸アーバンデザインをされていて、神戸の町おこしの重鎮的な存在である、神戸理事長に駆けつけていただきました。オブザーバーとしてのご意見をお願いいたします。

（神戸） 神戸デザイン協会の神戸です。神戸市は 13 年前に震災を経験しました。それまでは神戸の持っているファンション都市としての魅力があって、いろいろな地域から人も集ってきて、市民も元気だったのですが、震災を経験しまして、数年間は何とかハードで復興しようということで頑張ってきたのですけれども、だんだん市民や経済界の中でも元気がなくなってきたとして、これではなかなか立ち直れないのではないかと、行政あるいは市民、それからわれわれも専門家の立場で、3 年ほど前から新しい切り口で、神戸を元気にする方法はないものかと考えていたわけです。その中で、われわれデザイン協会では、行政と一緒にデザインを生かしたまちづくりを考えてみたのです。

そのときに、われわれは「デザイン」は三つあると考えました。一つは、それぞれの皆さんのが企画やコンセプトという形で現れているもの、形にするデザインです。先ほど高木さんが街道という概念で三つほど提案されましたけれども、それも一つの思いが企画という形で現れたものだと思うのです。そして、その思いを具体的に実現するために形や色、仕組み、構造というものがあって、そのときに初めてわれわれグラフィックとか建築のデザイナーの役割が果たせるわけです。もう一つは、いくらいいい思いや

デザインがあっても、それをどう実現していくかということがなければ、絵に描いた餅に終わる。それを実現していくためのシナリオ、プログラム、仕組み、お金をどう調達するかということです。思いと、狭義のデザインと、それを実現するためのプログラム、この三つを含めて「デザイン」ということにして、神戸市は今後それに力を入れていきましょうということにしたわけです。

市長はあちこちで宣伝しているのですが、いまいち市民に浸透していないくて、最近言われているのは、神戸には神戸のライフスタイルがあるだろう。そのライフスタイルを提案していくて、神戸に観光客が来てもらうようにしようとか、あるいは神戸はウォーターフロントで、港がありながらなかなか市民の方がそこに近づけないので、港と都心をどうつないでいくかということで、足的にはLRTを走らせようとか、途中にちょっとうつとうしい国のビルがあるのですが、それを撤去してしまえとかということです。暮らしのデザインと、神戸が自分たちの誇る港をどうつなげていくかという、この二つのデザインを今やっているわけですが、今日は村上さんから非常にいいヒントをいただきました。

それから、デザイナーはどうしても形にこだわってしまうところがあります。特に三条通というと、どうしてもハードなイメージを皆さん描いてしまう。先ほど高木さんが言われた街道というとらえ方をすると、歴史があったり、文化があったり、人との交流があったり、何かロマンスを感じるような気がします。三条通というより、三条街道の方がぴったり来るような印象を受けました。

(藤原) 京都府中小企業団体中央会から商店街をずっと担当してこられた佐々木さんからも、何かご意見をお願いします。

(佐々木) だいぶ前に三条通をデザインするという形の提案をいただいたのですが、15kmで5ブロック、駅伝では5人のランナーがたすきをつなぐくらいの長い距離があり、最寄り品中心の商店街や観光地を中心とした商店街などさ

まざまな形態があって、それを一つにまとめるのは難しいなと思います。

ただ、連携していくことで新しい切り口が開けるというのはそのとおりだと思いますし、いろいろな形の連携の仕方があると思うのです。例えば極端な例では、AブロックとCブロックという、またぐのような形ではなく、隣同士ではなく、そんな連携の仕方。それと、今まで行政区ごとに単位が区切られていましたが、今回はそれがつながっています。デザイン協会さんでないとこの提案はできなかつたと僕は思っているのですが、そういう点で非常にいい提案をいただいたと思っています。

確かにいろいろな商店街には厳しい条件がありますけれども、新たな切り口、新たな地域活性化の方法として、何か活用できたらと思います。スタートの時点でさまざまな問題も抱えるとは思いますが、何か新しい方法があるような気もしますので、非常に今回は参考になった思いがします。

(藤原) 一通りご意見をいただきいただきましたが、われわれとしても今後進めていく上での参考にさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

平成21年4月以降、何回かこういう集まりを、今回は内輪でしたが、できるだけ市民の方にも入ってきていただいて、三条は今手をつないでこういうことをやっているとい



うようなことをアピールしていきたいと思っています。先ほど神戸理事長から「三条街道」がいいのではないかといふご提案がありましたが、それはさておき、われわれとしてはシンボルマークやスローガンをある程度具現化してこの事業をやっていくのですが、今日を契機に、お集まりいただいたこの商店街が連携を図って何か集まりを定期的にやっていきたいと思いますので、できるだけご協力のほど、よろしくお願ひいたします。

われわれは今後、商店街の情報のネットワークづくり、情報を共有するお手伝いをさせていただきたいと思っています。できるだけ多くの人に三条通をもう一度知っていたい。極端なことを言えば、皆さんで三条通のいろいろな所に行っていただけます。その一つの方法として、例えばスタンプラリーを共同でやっていったり、駅伝方式でやっていったり、そういうこともハードとしては考えられます。その前に、この商店街全体を三条というテーマでつないで、商店街のネットワークづくりをしていく。

それから、三条通のマップの制作です。当然、三条通を発掘して、新たな文化や地域財産をマップの中に反映する。われわれのメンバーには編集、エディトリアルの専門のスタッフもおりますので、そういうチームに三条通マップの作成をしてもらいます。これは極端に言えば、蛇腹（じゃばら）でずっと広げるとたまに1畳ぐらいの長さのマップになっていて、そこには観光、祭り、歴史遺産、史跡、商店街の特徴などがすべて網羅されているという、東京の出版社がのどから手が出るぐらいの内容のものをわれわれで作っていく。逆に、出版社にそれを販売していただくことによって、われわれが持っている情報を全国にアピールできるかと考えておりますので、ぜひご参画いただきたいと思います。

(大石) 今日の会議の趣旨がよく分からぬというおしかりを受けましたが、趣旨は集まることだったのです。つまり三条通という舞台に関連する人々が、できるだけひざを突き合わせて話をしていく。それぞれの商店街の課題なり、思いなり、きっと今日お話しにならなかつたもっと深い課

題や、自慢したいこともまだあろうかと思いますが、三条通というものを視野に入れながらそれぞれのポジションについても考えてみようということに、まずは大いなる意義があつたと思います。

ともすれば会議をやっていろいろな意見が出ましたということで終わりがちですが、そうしたくないのがこのプロジェクトです。ですから、これは3年間はやろうと思っています。2008年度はこの3月で終わりますが、商店街の皆さまを中心にお話し合いをして、できればネットワークを組んで三条通の東から西までの幾つかのエリアをつないでいきたい。この15kmのうち、商店街全部をつないでも5kmにも満たないと思います。それ以外のところも三条通です。三条通について、商店街以外のところでもいろいろ活動しておられる方がいらっしゃいます。その方々が、今日新聞を読んで、一体どんなことするのだということで来てくださっています。それはとてもありがたいことです。商店街さんは三条通の中で、あるエリアでまとまって活動しておられることはよく分かるけれど、それ以外のところはどんな組織になっているのか、どんなふうに考えておられるのかがまだ全然把握できていない。共有もできていません。そういうものも今後はつながっていきたい。

今回、商店街さんではないでお集まりいただかなかつたのですが、三条まちづくり協議会というのがあります。これは寺町から烏丸、新町ぐらいだと思いますが、昨今に



ぎわいの高い三条通になっています。それから、三専会の方も、かつて三専会は堀川から新町ぐらいまでですが、少し元気がなさそうで、今後どうしていったらいいのかということも含め、いろいろつながりを具体化していきたいと思っています。

一方で、高木さんの花街道というような提案をどう具現化できるかも、地域で検討できるような仕掛けを考えていきたいと思っています。そういう動きを今後させていただくことについて、ご理解とご協力をいただけるということで、今日はここに来ていただいたと理解してよろしいですね。無理やりですけれども。そして三条通に行ったら何か楽しくなるなというような通りに、やがてはしていきたい。通りというのは、そこでいきいきと生活していることが最大の文化だと思っています。いきいきご商売なさっておられるのも重要なことで、デザイン協会が音頭を取って皆さんとそういう通りにしていければと思っております。

企画書の3ページに、デザインのポイントを書いていますが、四つほどのグループに分けてあります。1の町衆のエネルギーというのは、まさに今日やっているようなことです。皆さんの思いなり、ご経験なり、ご意見なり、アイデアなり、そういう熱意のようなものをどう結集していくかが一つのデザインだと思っております。これは簡単にはできませんが、実は一番重要なことではないかと思っ



ております。2番目は通りの歴史、文化です。これは既にたくさんありますので、これからわれわれも手分けして再発見し、三条通の中でもう少し提示していきたいと思います。それから、ハードな意味での環境、景観、空間のデザインがあります、これも一長一短にいかない、なかなか経費のかかることで、さらに行政との高いコントラクトを必要とする部分です。

例えば、三条まちづくり協議会は寺町から新町まで、ハードな意味での改修がなされた結果、今日になっているという部分があると聞いております。実は前年度のこの会議で、三条まちづくり協議会をやられた行政の方のご意見を聞いていたのですが、わずか幅9mの道路の両端に、白線ではなく、インターロッキングという舗装をしたところ、車が遠慮し始めたとおっしゃっていました。何となくそこは踏んではいけないような、スピードを落とそうかとかというイメージになってきて、また一方で人びとが歩き始めた。折から、周りに明治の古い建築物が残っていたり、新風館ができたり、地下鉄の駅ができたりして、三条の名店街から西の方にもどんどん流れいくことができるようになった。つまり、道路のハードなデザインを一つ変えることが一つの大きなきっかけとなって、商店がどんどん広がっていき、人々がどんどん歩いていくようになったということです。

そういったわれわれの経験も含め、この通りの環境デザインをいろいろな角度から見つけていきたい。花を出しましょうというのも具体的にはハードの話なのですが、これも道のデザインと含めて考えていくことも可能かと考えています。

そして最後に、もののデザインと書いてあります。これは三条通が全国的なブランド名になっていくといいなという思いです。あそこへ行ったら楽しいな、あそこでこんなものが売っていたよ、こんなものができている、こんなおいしいものがあるというようなことが、最終的にはデザインでいく。これがいろいろな地域につながってもいいし、個別に商店街ごとの特性が出てもいいと思っています。

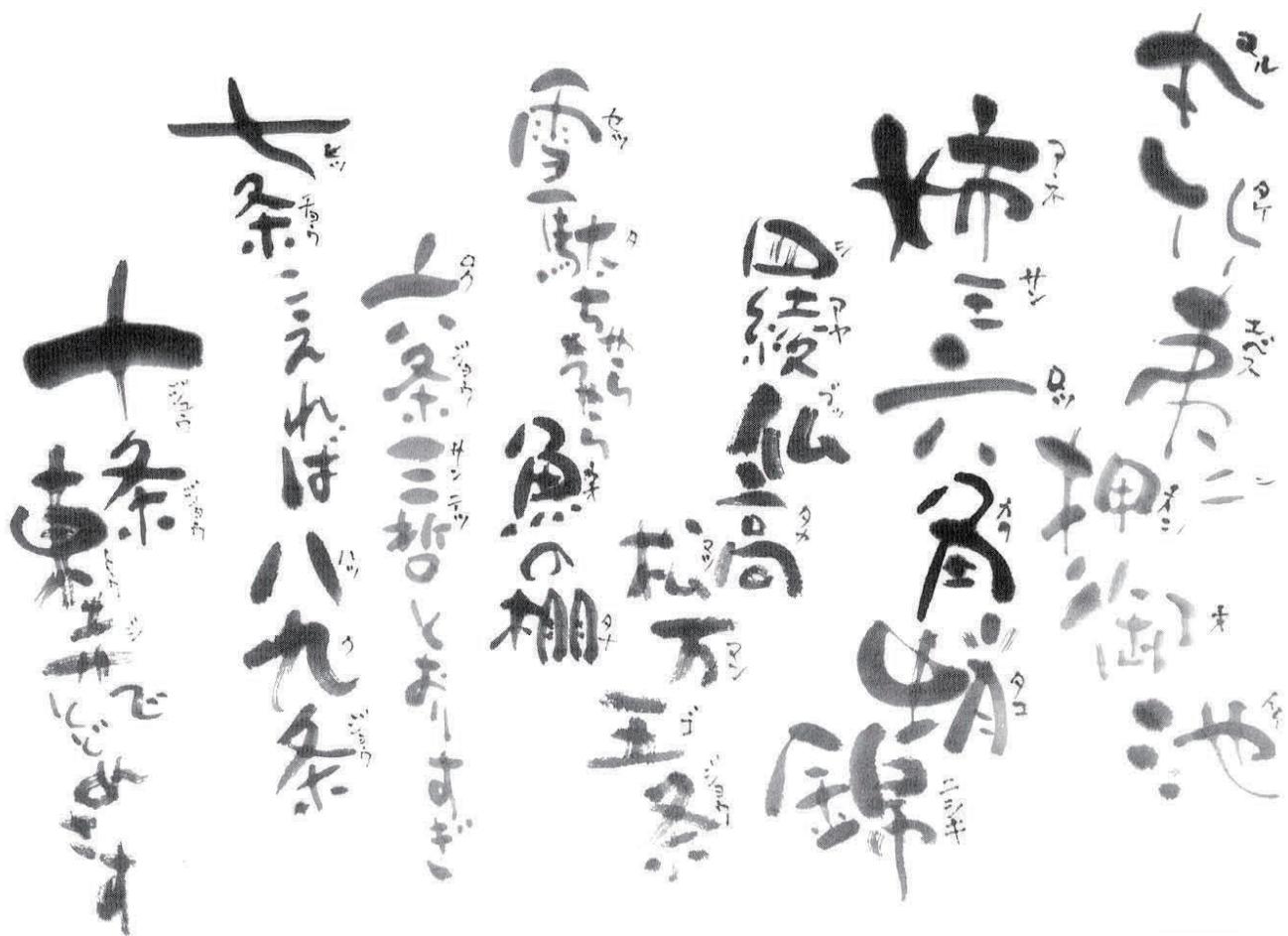
まだいろいろな課題が山積していると思いますが、それ

ぞれアイデアを出せるような機会をどんどん作って前へ進めていきたいと思っております。

(司会) いろいろな問題点が出てきましたが、皆さんの努力次第で点が線になっていくと思います。デザイン協会のメンバーは、皆それぞれで考え、普段から一生懸命本プロジェクトに情熱を注いでおります。三条通は100年前はメンストリートだったというプライドを持って、一つ一つの地道な努力を積み重ねていくことが、明日につながっていくのだと思います。皆さん、ありがとうございました。



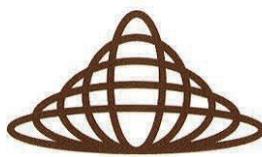
シンボルマークイメージ



Calligraphy／藤原義明

社団法人京都デザイン協会 機関誌 DIALOGUE2009
テーマ：「三条通デザイン計画」から見えるもの
発刊日：平成21年4月
発行：京都デザイン団体連携協議会
議長：三輪 泰司
副議長：奈良 磐雄
実行委員長：大石 義一
実行委員：川口 凱正
藤原 義明
永田 義博
小川 富男
小山 比奈子
才門 俊文
事務所：(株)京都デザイン協会
〒604-8247
京都市中京区塩屋町39(三条通小川北西角)
TEL 050-3385-8008
FAX 050-3385-8009

本誌掲載の記事・写真などの無断転載を禁じます。



平成21年3月11日(水)14:00～16:30
京都商工会議所 2階会議室